



プレスリリース

# Infosys Science Foundation、 第 14 回「Infosys Prize」の受賞者を発表

科学および社会において特筆すべき貢献をした 6 名が受賞

バンガロール（インド） – 2022 年 11 月 15 日: [Infosys Science Foundation \(ISF\)](#) は本日、「Infosys Prize 2022」の 6 部門（エンジニアリングおよびコンピューターサイエンス、人文科学、ライフサイエンス、数理科学、物理科学、社会科学）の受賞者を発表しました。「Infosys Prize」は受賞者の功績を称え、インドに影響を与える科学と研究への貢献を賞するものです。各部門の受賞者には金メダルと表彰状、および 10 万米ドル（またはインドルピー建て相当額）が授与されます。授賞式はバンガロールにある Infosys Science Foundation の新オフィスで行われました。

「Infosys Prize 2022」の審査には世界的に名高い学者や専門家などが参加し、218 人の受賞候補者の中から受賞者を選びました。Infosys Science Foundation (ISF) は過去 13 年間、人々の生活のあらゆる局面に貢献してきたクリエイティブで最高の科学研究に対して賞を授与してきました。ISF はこうした優れた研究者へ同賞の授与を通じて、個人的な成果を称えるだけでなく、科学と研究の追求をキャリアの選択肢として若者に推進しています。「Infosys Prize」の受賞者にはノーベル賞受賞者が 2 名、フィールズ賞受賞者が 2 名、マッカーサー・フェローが 1 名、その他政府高官や学界の著名人が名を連ねます。

授賞式には Infosys Science Foundation の理事であるクリス・ゴパラクリシュナン、ナラヤナ・ムルティ、スリナート・バトニ、K・デニッシュ、モハンダス・パイ、サリル・パレク、SD・シブラルも出席しました。

**Infosys Science Foundation の社長であるクリス・ゴパラクリシュナン**は次のように述べています。「Infosys Prize は研究者を個人的に評価し、報いることにより、インドでの高度な研究を推進しています。受賞者の方々は、人類の知識を拡大しており、同時にその功績は実際に今ここに影響を及ぼしています。受賞者の方々の貢献がより広い範囲に影響を及ぼし、今ある問題を解決するだけでなく、気候変動の影響や誰もが利用できる診断や医療、メンタルヘルスの



問題、基本的人権の実現などを含めた、人類が直面する存亡の危機を解決する土台形成につながることを望んでいます。」

**インフォシスの創業者で ISF の理事を務めるナラヤナ・ムルティ**はインドにおける科学研究分野への投資の重要性について次のように述べました。「官民による科学研究分野への投資拡大が急務です。これが国家や人類全体が直面している問題を解決するために進むべき最良の方法なのです。研究者の方々は壮大な問題に挑む我が国最前線の戦士です。だからこそ彼らを激励しなければなりません。Infosys Prize の受賞者は国家や世界が現在直面している気の遠くなるような問題を解決しようと、有益な研究を続けています。」

## 「Infosys Prize 2022」6 部門の受賞者

### エンジニアリングおよびコンピューターサイエンス

「Infosys Prize 2022」エンジニアリングおよびコンピューターサイエンス部門賞は Suman Chakraborty 氏が受賞しました。

同氏は、インド工科大学カラグプル校で機械工学教授および研究開発学部長を務めており、流体力学的相互作用、界面現象およびマイクロとナノスケールの電気機械技術の解明における先駆的な研究が評価されました。同氏はこの研究成果を活かして、検知や診断、治療用の新たな医療機器を低コストで開発し、資源の限られた状況下での医療の発展に貢献しました。

### 人文科学

「Infosys Prize 2022」人文科学部門賞は、インド国立法科大学バンガロール校学長の Sudhir Krishnaswamy 氏が、インド憲法に関する洞察に満ちた研究で受賞しました。特に、画期的な「Basic Structure Doctrine（基本構造教義）」の重要性に関する徹底した議論が評価されました。同教義は 1973 年に最高裁判所に採択されたもので、あらゆる憲法改正の試みを制限し、指針を与えるとともに、インドの政治が行政や立法の決定に直面した際の憲法の安定性の確保にもつながっています。



## ライフサイエンス

「Infosys Prize 2022」ライフサイエンス部門賞は、ムンバイのタタ基礎研究所の生物科学部の教授兼理事である Vidita Vaidya 氏が、不安や鬱といった気分障害の根底にある脳のメカニズムの解明に関する基礎研究で受賞しました。幼少期のストレスに誘発されてたびたび起こる行動の変化の原因となる神経伝達物質セロトニンによる信号や、脳細胞のエネルギー代謝におけるセロトニンの役割などに関する研究が評価されました。パンデミック後は、メンタルヘルスの集中的なケアの重要性が高まり、以前にも増して急務となっており、同氏の研究はこうした状況に非常に則したものです。

## 数理科学

「Infosys Prize 2022」数理科学部門賞は、インド理科大学院バンガロール校の数学教授である Mahesh Kakde 氏が代数的整数論への多大な貢献により受賞しました。同氏の非可換岩澤理論の主予想、Gross-Stark 予想（Samit Dasgupta 氏および Kevin Ventullo 氏と共同）および Brumer-Stark 予想（Samit Dasgupta 氏と共同）に関する深い考察は、近代数論の中核を成す未だ解明されていない予想の証明につながるものです。数論は数の関係について研究するもので、数学の女王とよく言われており、暗号学などの分野でよく実践的に応用されています。

## 物理科学

「Infosys Prize 2022」物理科学部門賞はプネのインド国立電波天体物理学センターの教授である Nissim Kanekar 氏が、星が最も形成された、いわゆる「形成最盛期」の銀河の研究で受賞しました。このほか、同氏は綿密な天文学研究により、微細構造定数や電子と陽子の質量比に永年変化があるという説が制限されることを明らかにしました。Kanekar 教授の研究はインドの電波天文学のレベルを世界レベルに押し上げました。

## 社会科学

「Infosys Prize 2022」社会科学部門賞は、エール大学のヘンリー J. ハイツ 2 世経済学教授で経済成長センター長である Rohini Pande 氏が、ガバナンスと説明責任、女性のエンパワーメント、貧困者の生活におけるクレジット（信用）の役割、環境などの重要テーマに関する優れた研究により受賞しました。多様なメソッドにより実証された同氏の研究結果は、インドなどの新興国の政策設計において希望や可能性を大きく広げるものです。気候（変動）による危



機がもたらす副作用や、社会的公正、公平且つ公正な社会を作る条件に関する議論がこれまで以上に急務となりつつあるなか、Pande 教授の研究は非常に意義深いものです。

## Infosys Science Foundation について

「Infosys Prize 2022」は 2009 年に創設された非営利財団である Infosys Science Foundation が授与するものです。この賞は毎年、エンジニアリングおよびコンピューターサイエンス、人文科学、ライフサイエンス、数理科学、物理科学、社会科学の 6 部門で優れた功績を残した近代の研究者や科学者を称えるものです。各賞には金メダルと表彰状、10 万米ドルが授与されます。この賞は研究の成果を称えるとともに、これらの分野での卓越性を示すものです。

### 審査団

Arvind 教授 | Akeel Bilgrami 教授 | Mriganka Sur 教授 | Chandrashekar Khare 教授 | Shrinivas Kulkarni 教授 | Kaushik Basu 教授

### 理事

Srinath Batni | K. Dinesh | S. Gopalakrishnan | Narayana Murthy | Nandan Nilekani | T. V. Mohandas Pai | Salil Parekh | Shibulal S.D

## インフォシスについて

インフォシスは、次世代デジタルサービスとコンサルティングの世界的リーダーです。当社の従業員 30 万人以上が個人や企業、コミュニティの人材の潜在能力を高め、次の機会を創造する取り組みを行っています。40 年以上にわたるグローバル企業のシステムや業務管理の経験に基づき、世界 50 か国以上のお客様のクラウドによるデジタル変革を専門家として導いています。この実現には AI を導入したコアを利用しており、企業の力を高めるためにアジャイル手法とデジタル化を大規模に導入しています。また、当社の常に学ぶ姿勢は、デジタル・スキル、専門知識、および当社のイノベーション・エコシステムから創出されるアイデアの移転を通じて、お客様の継続的改善を実現しています。当社はガバナンスの行き届いた、持続可能な組織環境づくりに強くコミットしており、受容性の高い職場で多様な人材が活躍しています。

インフォシス (NSE, BSE, NYSE: INFY) が次のステージへと進む企業を支援する方法については、[www.infosys.com](http://www.infosys.com) をご覧ください。

## セーフハーバー条項

本リリースの記述は、当社の将来的な成長や財務予測、COVID-19 による従業員や顧客、利害関係者への影響の管理計画など、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項に規定される「将来予想に関する記述」が含まれています。これらは、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、COVID-19 に関連するリスクと不安定要素およびその拡散を抑制するための政府やその他の対策の



効果、インドや米国その他諸国における経済の悪化や景気後退に関するリスク、政情や業況、経済情勢の変化、利益の変動、外国為替レートの変動、当社の成長管理能力、当社のコスト優位性に影響を与え得る要因を含む IT サービス分野における競争の激化、インドと米国での人件費高騰、高い技能を持つ専門的な人材を採用し維持する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野のテクノロジーに対する需要の低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、当社が戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切りまたは終了、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢、訴訟や政府による調査の結果などがありますが、これらに限定されません。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクの詳細については、2021 年会計年度（2022 年 3 月 31 日付）年次報告書（Form 20-F）を含め、米国証券取引委員会に提出された当社報告書に記載されています。これらの報告書は、[www.sec.gov](http://www.sec.gov) でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、当社が随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

詳細のお問い合わせ先：

インフォシス 東京オフィス

マーケティング本部長 安藤 [jo\\_ando@infosys.com](mailto:jo_ando@infosys.com)